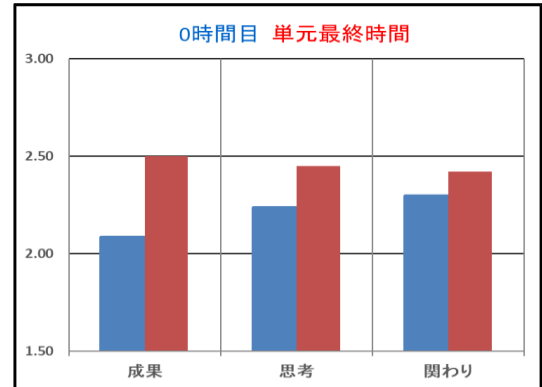
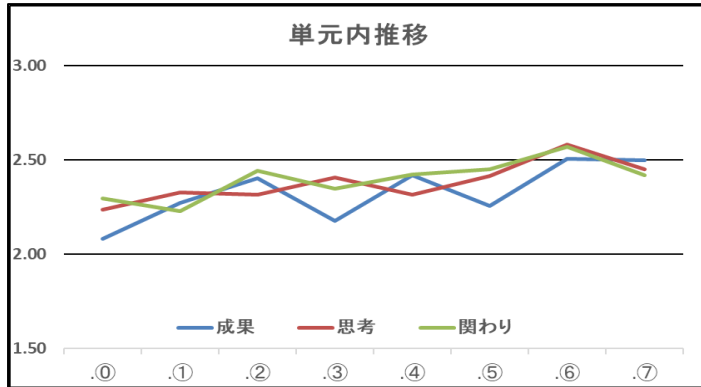


1 単元名 大きく描こう！レインボーアーチ～側方倒立回転～ (器械運動・マット運動)

2 児童の変容

(1) 情意面 (形成的授業評価をもとにした授業評価から) 男子12名 女子16名 計28名



- ・「成果」は単元前よりも数値が大きく向上した。完全な側方倒立回転ができなくても、練習を重ねて一人一人が小さな進歩を感じられていたことがうかがえる。単元内推移に着目すると、時間によってばらつきがある。高い数値を記録した時間は、思考しながら技能ポイントを確認したり、明確な意図をもって課題解決学習に臨んだりしたことが、児童一人一人の達成感につながったのだと考えられる。一方、低い数値を記録した時間は、課題の再確認の時間で自身の課題に目を向けていたり、課題解決学習がうまくいかずに停滞してしまっていたりしたことが推察できる。
- ・「思考」も単元前よりも数値が高くなった。特に高かったのは6時間目である。この時間は、課題解決学習の最後の時間であり、自身の課題を解決するため、めざす姿に近づくために、試行錯誤しながら取り組むことができていた児童が多かったことがうかがえる。「何のための練習なのか」「自分に必要な取り組みはどれなのか」よく考えながら学習することができていたと考えられる。
- ・「関わり」も単元前よりも数値が向上した。特に高かったのは「思考」と同じく6時間目である。課題解決学習において友達と関わり合いながら、友達と共に試行錯誤しながら学習できたことで、数値が高くなったと考えられる。また、教師も意図的に児童一人一人に関わることを意識し、積極的に支援したことが奏功したと考える。対友達、対教師という形で、よりよい関わりができていたことがうかがえる。

(2) 技能面

	①かえるの足打ち (両手に体重が乗り、腰が垂直まで上がる)			②川跳び側転 (両手に体重が乗り、腰が垂直まで上がる)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	6	15	7	3	20	5
単元後	18	9	1	12	15	1

	③壁倒立 (目線がマット) (体がまっすぐ)			④側方倒立回転 (体全体がマットに垂直) (手手足足のリズム)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	9	3	16	3	8	17
単元後	16	5	7	9	14	5

- ・単元前と比較して数値の上昇が見られる。特にかえるの足打ちや壁倒立に関しては、多くの児童が自信をもってできるようになった。そこで得た「マットを見て、しっかりと手で体を支える感覚」が他の運動にもつながったと考える。また、壁倒立がしっかりとできるようになったことで、今後取り組んでいくことになる倒立前転やロンダートなどにつなげていくことができると考える。
- ・本単元の主運動である側方倒立回転は、形にはなっているが、腰の位置が低かったり、手足が曲がったりしてしまっている児童が多かった。逆さ感覚が養われていない中での取り組みだったので、下学年からの積み重ねや反復練習の重要性を改めて感じた。また、一つの技に固執することなく、いろいろな動きを体験させ、多様な運動感覚を養っていくことが重要であると考えた。

(3) 思考面

問 側方倒立回転ができるようになるために、どのような練習や取り組みが必要だと思いますか（しましたか）。（複数可）			
単元前		単元後	
・倒立（壁倒立）の練習	1 2	・手形足形を使って、通り道を確認する練習	1 0
・ひもを使って足を上げる練習	1 1	・ゴムひもの道を作って、当たらないようにする練習	6
・大の字周りの練習	5	・壁倒立をして手で支える練習	5
・動画を撮る、見る	4	・壁倒立で足を振り上げる練習	5
・友達とアドバイスし合う	4	・スポンジ棒を使って足を高く上げる練習	4
・壁に沿って回る練習	2	・ゴムに当たらないように腰を上げる練習	4
・背中を伸ばす練習	2	・かえるの足打ちや川跳びで足や腰を上げる練習	3
・先生に補助してもらう	2	・円盤回りで、手手足足のリズムの練習	3
・マットの赤線の上で回る練習	1	・足を伸ばす練習	1
・友達と見合う	1	・友達とアドバイスし合った	1
・足を大きく開く練習	1	・目線をマットにすることを意識した	1

- ・側方倒立回転の知識が定着し、漠然とした練習方法ではなく、技能ポイントを踏まえた具体的な練習や取り組みについての記述が増えた。児童が技能ポイントを意識して、「何のための練習なのか」という練習や取り組みの意味をしっかりと確認しながら、自身の課題解決に向けて必要なことを考えて試行錯誤しながら学習することができた成果だと考える。

3 成果と課題

中学年のめざす姿

自分の課題を見付けたり、課題解決に取り組む内容を選んだりする中で、知識や考えたこと、気付いたことを伝え合うことができる児童

【成果】

- ・単元前半において、側方倒立回転につながる技能ポイントを、技能差関係なしに全員で試行しながら考えることで、周辺運動や主運動の技能が向上した。単元後半では、一人一人が自身のめざす姿に向かって練習できるような課題解決学習の時間を多く設定したことで、授業評価で高い数値を記録したことからわかる通り、充実感や達成感を得られた児童が多かった。
- ・側方倒立回転の技能ポイントについて思考しやすくなるように、選択肢を与える発問や活動を取り入れたことで、AとBを比較してどちらがよりよいか考えながら練習に取り組むことができた。「〇〇だからAの方がよい」などという理由付けを行い、それを全員で共有することで、主運動や課題解決につなげることができた。何かに対して闇雲に考えるようにするのではなく、選択肢を与えて比較して考えるようにすることは有効であると再認識した。
- ・スモールステップ表やフローチャート、ヒントカード、学習カードなどの、児童にとって学習資料となるものを充実させることで、それらをうまく活用しながら課題解決学習に取り組む児童が多く見られた。学習資料を作成する際に、「児童は何に困っているのか、つまづいているのか」「児童は何を必要としそうか」ということを教師が常に考え、児童の思考の一步先をいく指導、支援が重要であると感じた。
- ・児童が「いつでもどこでもだれとでも」学び合いができるようになることを、単元を通して意識しながら授業を行った。友達への声掛けや補助、見合いなどができている児童を認め、広めていくことで、学び合いの輪が学級全体に広がっていった。また、教師の積極的な関わりの重要性も再認識した。行き詰ったりもう少しでうまくいきそうだったりする児童には、教師が積極的に指導、支援することで、状況を打破する児童を多く見ることができた。児童同士の豊かな学び合いに加え、教師が的確に指導や支援をすることで相乗効果を生み、充実した学習につながることを再認識することができた。

【課題】

- ・側方倒立回転の動きやポイントは理解しているが、なかなかうまくならないという児童も散見された。友達や教師からのアドバイスで、何が必要なかはわかるのだが、そのためにどうすればよいかわからないという児童に対しての適切な指導や支援を講じることができるようになりたい。
- ・課題解決学習において、課題を解決できるような多くの場や練習方法を用意したが、「なんとなくここで練習しよう」という感じの児童もいた。「あなたは〇〇ができていないから、違う場や練習の方がよいのではないかな」と声掛けをしても、場を変えたり練習方法を再考したりする児童は少なかったため、児童一人一人がもっと必要感をもって学習に取り組めるような手立てを再考していきたい。